

<p>84-104475/17 F06102 FUJI-10.09.82  FUJI FIBRE GLASS KK *J5 9047-479-A  10.09.82-JP-156587 (17.03.84) D06m-11 D06m-15  Bulky woven glass fibre based textile goods - in which fabric is coated or impregnated with processing soln. contg. inorganic powder and binder</p>	<p>F(2-A3, 2-A3A, 3-E1, 4-C1) L(1-F3A)</p> <p>138</p>
<p>C84-044529</p> <p>The inorganic powder is hydrated mineral, highly heat conductive anhydrous mineral or carbonate mineral and pref. are Al hydroxide, talc, B nitrate, Zr borate, Ti carbide, graphite, etc. The binder is selected from among heat resistant organic and inorganic binders.</p> <p>The processing soln. is applied pref. by spraying in 2-50, pref. 5 to 30 pt.wt. per 100 pts.wt. of glass fibre plus solid content of the processing soln. The inorganic powder has a particle size of below 250, pref. below 70 microns. The cloth does not irritant the skin, is resistant to fraying and fusion by spark of welding and is useful as substitute for asbestos cloth. (4pp Dwg.No.0/0)</p>	

19 日本国特許庁 (JP)

意 特 許 出 願 公 開

12 公 開 特 許 公 報 (A)

昭59—47479

51 Int. Cl.<sup>3</sup>  
D 06 M 15 00  
11 00

識別記号

庁内整理番号  
7107-41.  
7199-41.

43 公開 昭和59年(1984)3月17日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 4 頁)

54 ガラス繊維強化製品

ファイバークラス株式会社真岡工場  
内

21 特 願 昭57-156587

22 発 明 者 竹原俊

22 出 願 昭57-1982-9月10日

真岡市鬼怒ヶ丘6番地富士フ  
ファイバークラス株式会社真岡工場  
内

22 発 明 者 大関正

真岡市鬼怒ヶ丘6番地富士フ  
ファイバークラス株式会社真岡工場  
内

23 出 願 人 富士フファイバークラス株式会  
社  
東京都千代田区内神田一丁目13  
番7号

22 発 明 者 近藤正弘

真岡市鬼怒ヶ丘6番地富士フ

明 記 書

特許請求の範囲第1項記載の構成から

1. 発明の名称

ガラス繊維強化製品

2. 特許請求の範囲

1. 繊維質材およびガラス繊維を主成分とする

繊維質を織布含浸した繊維強化製品、

2. 繊維質材が織布であることと特徴とする  
特許請求の範囲第1項に記載の繊維強化製品、

3. 繊維質材が非織性の織物である  
ことと特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の  
繊維強化製品、

4. 繊維質材が、繊維質材の織物であることと特徴  
とする特許請求の範囲第1項に記載の繊維強化製  
品、

5. 繊維質材が、繊維質材の織物であることと特徴

とする特許請求の範囲第1項に記載の繊維強化製  
品の製造方法、

6. 繊維質材が、繊維質材の織物であることと特徴

する

7. 繊維質材が、繊維質材の織物であることと特徴  
とする特許請求の範囲第1項に記載の繊維強化製  
品、

8. 繊維質材が、繊維質材の織物であることと特徴

とする特許請求の範囲第1項に記載の繊維強化製  
品の製造方法、

### 3. 學問のすすめ

本発明はガラス繊維製品に関するものである。  
さらに詳しくは、有機代価露のガラス布に関するものである。

[illegible]

右の模範を得た材料の一つは、その組織が粗く、易に  
加工され、たまたま繊維には、一、二重織された布、以  
て織造する布といふことは、右の模範と異なり、上  
部は粗織部が認められ、2、解けのため整理が容易、  
3、品質の一定したものが求められ易い、4、引張  
強度が高い、5、比重を有しているが、反面、右  
の模範を代替する目的で使用しているうちに、その

1) 明かにたゞとてきた。それには、1) カラスの群  
 のもつ皮肉刺戟性、2) 市街地での目につく、3)  
 環境大花に比べて都市部から忌避、4) 半眠さ  
 などに對する敏感感、相違がある。

本學期著者曾、自編授課本「植物生理學」在臺灣大學及臺灣省立大學等校授課，並蒙各系同學踴躍參加，深感欣幸。茲將該書內容，略予修訂，再行出版。除原書中錯誤之處，予以更正外，並增補下列各點：

- (1) 本書內容，力求詳盡而扼要，在內容上，力求科學化，並力求系統化，以期能適應各系同學之需要。
- (2) 本書內容，力求詳盡而扼要，在內容上，力求科學化，並力求系統化，以期能適應各系同學之需要。
- (3) 本書內容，力求詳盡而扼要，在內容上，力求科學化，並力求系統化，以期能適應各系同學之需要。
- (4) 本書內容，力求詳盡而扼要，在內容上，力求科學化，並力求系統化，以期能適應各系同學之需要。
- (5) 本書內容，力求詳盡而扼要，在內容上，力求科學化，並力求系統化，以期能適應各系同學之需要。
- (6) 本書內容，力求詳盡而扼要，在內容上，力求科學化，並力求系統化，以期能適應各系同學之需要。
- (7) 本書內容，力求詳盡而扼要，在內容上，力求科學化，並力求系統化，以期能適應各系同學之需要。
- (8) 本書內容，力求詳盡而扼要，在內容上，力求科學化，並力求系統化，以期能適應各系同學之需要。
- (9) 本書內容，力求詳盡而扼要，在內容上，力求科學化，並力求系統化，以期能適應各系同學之需要。
- (10) 本書內容，力求詳盡而扼要，在內容上，力求科學化，並力求系統化，以期能適應各系同學之需要。

本書內容，力求詳盡而扼要，在內容上，力求科學化，並力求系統化，以期能適應各系同學之需要。

[illegible][illegible]

くなったり、嵩高ガラス布の柔軟性を阻害したり、また経済性の面からも望ましくない。これらの処理剤は浸漬法、タッチロール法、スプレー法等により、ガラス繊維に塗布することが出来るが、処理剤をなくすこと、塗布後の乾燥を容易にする、嵩高性をそこない等の点からスプレー法が望ましい。

以下、実施例によつて本発明を説明する。

#### 実施例

太さ135デックスのガラスストランド10本を引揃えてワイードローラーを通した後、粘着剤を前に通して嵩高加工してワインターで巻き取った。この時のワイードローラーの引揃速度は $100\frac{m}{分}$ 、ワインターの巻取り速度は $90\frac{m}{分}$ 、巻取られた嵩高糸の太さは1450デックスであった。

この嵩高糸を使用し、レビテ式織機で経8本/25mm、緯8本/25mmの打込み本数で平織リクロスを製造した。これを嵩高加工布と呼ぶ。この

#### 特開昭59-47479(3)

嵩高加工布に表1に示した組成の処理剤をスプレー法によつて処理し、乾燥して処理ガラス布を作成した。これを用いて次の表2の適量を評価した。結果は表1に示した通りである。なお、性状の評価方法は次のように行った。

##### 1) 反発回復性

試験布を直接規則に取付け、その割合を測定した。

##### 2) 光沢

肉眼観察により行った。

##### 3) クロス目地最小巻上径

50mm離れた位置からスクリーンバックにより糸を落かして出半の太玉を嵩高ガラス布上に落下させる。この時、糸を円筒する最小太玉径を一単位での成した。

##### 4) 処理剤の離脱性

湿紙の上に処理剤を塗布した嵩高リクロス布をのせ、ガラス布の上から10回軽くた

き紙一部の離脱性を確認した。

以上のとおり、本発明の嵩高ガラス布が得られていることを認む。

特開昭59- 17479(4)

表1 サラメ織機の原理組成と評価結果

[illegible]